

## 第13回 京北地域小中一貫教育校検討協議会

◇ 日 時 平成31年3月15日（金）19：30～

◇ 場 所 京北合同庁舎 大会議室

1 はじめに

2 前回の協議内容の確認 資料1

3 教育構想について 京北地域小中一貫教育校（仮称）学校案内（第1版）

4 校歌・校章の検討について 資料2-1～3

5 施設整備について 資料3-1・2

6 通学安全に係る登校シミュレーションについて 資料4

7 学校説明会等について 資料5-1～5

8 次回の日程について

## 第 1 2 回（1 1 / 2 0）の協議内容

### 1 校名案の選定について

専門家から提案された 4 点の校名案を基に、応募のあった校名候補案も含めて議論・検討を行い、「京都京北」を地元校名案とすることを決定した。

これに伴い、1 2 月中下旬頃に、検討協議会から教育委員会へ「校名要望書」を提出することを決定した。

### 2 施設整備について

敷地造成工事の進ちょく状況について報告した。

また、新校舎の概要について、各階平面図を基に説明を行うとともに、完成イメージ模型を披露した。

### 3 通学安全に係る登校シミュレーションについて

1 0 月 1 9 日（金）に実施した登校シミュレーションについて報告した。

実施結果を踏まえて、子どもたちがより安全に通学できるよう、今後も複数回実施し、検討していくことや、通学路の安全対策に関して、何らかの措置が必要な箇所については、検討協議会で確認のうえ、関係機関に働きかけていくことを確認した。

### 4 その他

新校の P T A 組織・規約等について検討する「4 小中学校 P T A 会長会」の取組状況について報告した。

## 校歌・校章の検討の進め方について（案）

3月15日	第13回検討協議会 ・取組の進め方を確認
3月中旬～	校歌・校章の創作活動を開始
6月頃	第14回検討協議会 ・校歌の歌詞完成報告，承認 → 作曲に着手
9月頃～12月頃	第15回～第16回検討協議会 ・校章完成報告，承認 ・校歌作曲完成報告，承認

## 京北地域4小中学校 校歌・校章

## 京北第一小学校 校歌

作詞 一瀬 裕子  
作曲 中村 智子

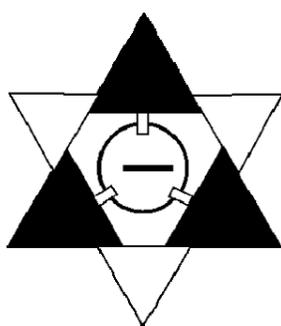
一 山よ、緑の燃える城山に  
友は夢、風は鳥を追いかけて  
我ら杉の子 元気な子  
歌よ翔べ 翔べ 大きな希望で  
心のりぼんをつなぎあう  
仲よし 京北第一小学校

二 川よ、光の映える大堰川

友は流れ、水は野原を追いかけて  
我ら鮎の子 元気な子  
歌よ翔べ 翔べ 大きな勇気で  
心のりぼんをつなぎあう  
仲よし 京北第一小学校

三 空よ、学び育む京北に

友は大地、瞳は愛を追いかけて  
我ら町の子 元気な子  
歌よ翔べ 翔べ 大きな歓喜で  
心のりぼんをつなぎあう  
仲よし 京北第一小学校



[京北第一小]

## 京北第二小学校 校歌

作詞 島 千代子  
作曲 中村 智子

一 緑したたる 山波みは  
われらの歴史の 礎よ  
輪になって 手をとれば  
大きな声で 歌おうよ  
京北第二小学校  
世界にとどけ 平和のこだま

二 瀬音やさしき 里川は

われらの心の よりどころ  
輪になって 一飛び  
みんな元気に 走ろうよ  
京北第二小学校  
宇宙へかけよう 虹の橋

三 野原の草花 美しく

われらの学びの 源よ  
輪になって 肩組んで  
小鳥や蝶と 踊ろうよ  
京北第二小学校  
地球の未来 守る空



[京北第二小]

## 京北第三小学校 校歌

作詞 友岡 由紀子  
作曲 船越 美和子  
中村 智子

一 みどりの山に こだまする  
元気な声は 弓削川の  
流れにそって 響きゆく  
心豊かに たくましく  
生きる喜び さがそうよ  
はばたく はばたく はばたく  
京北第三小学校

二 あつい太陽 背に受けて

野原いっぱい 駆けめぐる  
見上げる宇宙のそのはてに  
みんなで かけよう 夢の橋  
勇気を出して 進もうよ  
輝く 輝く 輝く  
京北第三小学校

二 高くそびえる大杉は

大地に大きく根をはって  
未来に歴史を刻みゆく  
共に学ぼう たゆみなく  
文化の花を 咲かそうよ  
のびゆく のびゆく のびゆく  
京北第三小学校



[京北第三小]

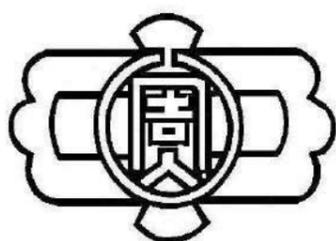
## 周山中学校 校歌

作詞 井上 経二  
後関 吉沢 義則  
作曲 山下 清孟

一 緑も深き 杉木立ち  
めぐる山を 窓に見て  
学ぶ我等は いやひけに  
絶えぬ努力の 道ゆかん

二 大堰の川の 水清く

瀬々に輝よう 朝日かけ  
大気も澄めり 朗らかに  
学ぶ心に 我生きん  
三 平和主義の いしずえを  
きづく使命に 手をとりに  
共にみがかん 若人の  
進む行く手に 光あれ



[周山中]

## 義務教育学校 校歌・校章



〔開晴小中学校〕

花びらで表した地元8学区が「開晴」の文字で繋がっている。8つの花びらに東山開晴館で育つ8学区の子どもたちが仲良く、明るい未来を開花させたいとの思いを表現。



〔凌風小中学校〕

陶化・東和・山王の3小学校と陶化中学校が一つとなる凌風学園を象徴する、3つの風の流れが渦を巻きながら1つに集まり、未来に向かって羽ばたいていく姿を表現。



〔東山泉小中学校〕

「泉」の文字を中心に3学区を表す3つの浪が溢れでる姿を表現。



〔向島秀蓮小中学校〕

校名の「秀蓮」から、蓮の花を用い、中央の花芯は子どもたちを象徴し、その子どもたちを花びらで包み、育てる姿を表現。

開晴小中学校 校歌（平成二十三年度開校）

作詞 吉川宏志  
作曲 平田あゆみ

一 朝風香る東山

永き歴史が

ここにあり

若き力の集まりて

未来をひらく

学びせむ

開晴 開晴

ひとみ輝く

東山開晴館

とこしへに

二 流れ優しき鴨川は

我らの夢を

はぐくめり

かけがえのなき友と会ひ

時代をつくる

こころざし

開晴 開晴

ひとみ澄みゆく

東山開晴館

光輝あれ

凌風小中学校 校歌（平成二十四年度開校）

作詞 姫野充子  
補作詞 吉川宏志  
作曲 平田あゆみ

一 見上げる空に

あふれる朝の光

夢に向かつて

歩む仲間がいる

明るい声が

校舎にひびき

新たな時は

ここからはじまる

さあ

強いつばさで翔けていこう

風を凌いで

高く 高く

二 宇宙を仰ぐ

きらめく星の光

力合わせて

創る未来がある

はるかな旅に

あこがれながら

われらは学ぶ

心をひらいて

さあ

若いつばさで翔けていこう

風を凌いで

遠く 遠く

東山泉小中学校 校歌（平成二十六年開校）

作詞 吉川宏志  
作曲 平田あゆみ

一 月輪の山を見上げて

はるかなる未来を思う

ここに集う仲間たち

ともに学ぼう

希望を胸に灯して

美しい夢を

いま創りゆく

東山泉

あふれる清らかな思い

東山泉

きらめく光

二 鴨川の水をながめて

大いなる歴史を思う

ここに集う仲間たち

ともに生きよう

勇気を胸に抱いて

新しい道を

いま歩き出す

東山泉

湧き出す美しい願い

東山泉

かがやく光

向島秀蓮小中学校 校歌（平成三十一年度開校）

作詞 吉川宏志  
作曲 平田あゆみ

一 川の光に

照らされて

朝が始まる向島

鳥のはばたく

さわやかな空

ここに集まる友たちと

創ろう

確かな未来

秀蓮 秀蓮

強く優しく生きる

わたしたちが咲かせる花

向島秀蓮

二 橋ははるかに

架けられて

夢が広がる向島

長い歴史と

新しい街

心素直に学びつつ

築こう

平和な世界

秀蓮 秀蓮

清く明るく生きる

わたしたちが咲かせる花

向島秀蓮

# 建築工事の状況等について(2019年2月末時点)

(全景写真(北東より))



(地盤改良作業)



## ○ 工事状況

- ・現場事務所設営完了
- ・仮囲い設置完了
- ・地盤改良工事完了

## ○ 今後の工事予定

- ・校舎棟
  - 3月～6月 基礎工事
  - 6月～10月 躯体工事
  - 9月～ 内装工事
  - 12月～ 外構工事
- ・体育館
  - 3月～5月 基礎工事
  - 6月～11月 躯体工事
  - 12月～ 内装工事
- ・アプローチ棟
  - 4月 基礎工事
  - 5月～10月 躯体工事
  - 11月～ 外構工事

# 土木工事の状況等について(2019年2月末時点)

(第1工区法面写真(南西より))



(第1工区法面写真(南東より))



## ○ 工事状況

- ・第1工区(新校舎南面)法面工事:概ね完了
- ・テニスコート造成工事:昨年12月完了
- ・ロータリー造成工事:土の掘削作業中

## ○ 今後の工事予定

- ・ロータリー造成工事:4月中完了予定
- ・第2・3工区(現周山中学校の校舎北側から体育館東側)法面工事:5月以降着手予定  
(施工業者決定済)
- ・ロータリー整備工事:6月以降着手予定  
(施工業者未決定)

(全景写真(1月末時点))



(朝礼の様子)



## 通学安全に係る登校シミュレーションについて

### 1 概要

#### (1) 日時

平成31年1月18日（金）登校時（合同学習を実施）

#### (2) 要領

第一小学校	通常どおりの方法で登校（冬季のみバス通学の児童含む）
第二小学校	黒田～第二小前（小塩・井戸除く。）の児童は、スクールバスで登校 小塩・井戸・山国～殿橋の児童は、路線バスで登校
第三小学校	全員、路線バス（2路線）で登校
周山中学校	黒田～第二小前（小塩・井戸除く。）の生徒は、スクールバスで登校 その他は通常どおりの方法で登校

#### ※前回との変更点

第二小の下地区については、保護者との協議を踏まえ、今回はバスで通学した。

#### (3) 実施結果

当日は雪が降っており、合同学習のための荷物に加えて傘も持った中での実施であったが、全路線で乗り遅れや車内での大きな混乱もなく、全員無事に登校し、概ね定時運行であった。

### 2 感想・意見

#### (1) 児童

- 乗り降りもスムーズにできた。バスに乗ることに慣れてきた。
- 前回よりはバスの中が混んでいる気がした。
- 下校のシミュレーションもしてほしい。

#### (2) 教職員

- 荷物を多く持たせたが、それほど混んでいる感じはなかった。
- 乗車口に固まっていたり、傘を閉じずに乗車する児童があった。

#### (3) 保護者

- 子どもたちもだんだん慣れてきているように感じられる。
- 下校時のシミュレーションも必要。

### 3 実施結果のまとめ

登校シミュレーションを3回実施し、乗車人数と車両の大きさの調整や、車内での過ごし方の指導、通学方法の検証をする中で、子どもたちも慣れ、少しずつスムーズに通学できるようになっており、今後とも安全で安定した通学環境の確保に取り組んでいく。

#### 4 今後の予定

- (1) 来年度は、登校時だけでなく、下校時のシミュレーションも数回実施する。
- (2) 個別に協議してきた地区について、適宜協議のうえ開校時の通学方法を決める。
- (3) バス停付近や学校付近の安全対策等について、関係機関への働きかけを行う。
- (4) 緊急時等の対応、定期券の取扱等について、関係機関との協議検討を進める。

#### <参考：登校の状況>

##### 第一小校区



徒歩による登校



スクールバスからの降車

##### 第二小校区



路線バスの到着



路線バス・スクールバスからの降車

##### 第三小校区



路線バスからの降車



路線バスからの降車

## 京北地域小中一貫教育校に関する学校説明会

## □ 開催日時・会場

日 時	会 場
平成 3 1 年 1 月 2 4 日 (木) 19:00～	周山中学校
1 月 3 0 日 (水) 14:35～	京北第三小学校
1 月 3 0 日 (水) 17:00～	京北第一小学校
2 月 5 日 (火) 19:00～	京北第二小学校

## □ 主な意見・要望等

別紙のとおり

## □ 配布資料

- 1 教育構想について 京北地域小中一貫教育校（仮称）学校案内（第1版）
- 2 施設整備について 資料 5 - 2 ・ 3
- 3 通学安全について 資料 5 - 4 ・ 5

## 京北地域小中一貫教育校に関する学校説明会における主な意見・要望等

## 1 教育構想

## 【参加者からの主な意見・要望】

- 各校で取り組んでいる地域とのつながりを通じた教育実践を継続してほしい。
- 行政区内で給食メニューが統一されているなか、他の地域と気候が異なる京北において、京北の特色を生かした献立が必要ではないか。
- 学校案内パンフレットにおいて、「いじめ見逃しゼロ (P.5)」と書かれている。いじめはあつたらいけないものであり、「いじめゼロ」と書いた方が良いのではないか。
- 学校教育目標は、全校の子どもたちに学校の目指すべき姿を理解させるものであり、小学生でも理解できる学校教育目標とするよう考えてほしい。
- 不登校の子どもに対する学習サポートの体制を整えてほしい。
- 地域に育まれた知恵を備えた力のある教員を採用してほしい。
- 5・6年生における一部教科担任制において、小学生への教授法についてトレーニングを受けた中学校教員が授業を行ってほしい。

## 【学校・教育委員会からの主な回答】

新校において、現在各校で行っている地域学習の取組を全て実施することは難しいが、新校における9年間を通して、より充実させた教育カリキュラムを検討しているところである。教育カリキュラムを管理し、地域資源を活用した授業をより充実させるとともに、しっかりと引き継いでいく。

給食は自校調理方式とし、これまでと同様、京北産食材を使うなど地産地消を実施し、食教育の充実につなげていく。

現在、文科省の定義において「いじめ」は、「当該児童生徒が心身の苦痛を感じれば『いじめ』に当たる」とされており、一定の集団生活の中で、心身の苦痛は誰もが感じ得るものであり、「いじめゼロ」は困難だと考えているが、本市では、しっかりと「いじめ」として認知することで、「いじめを見逃さない」という観点で、迅速に対応していこうという考えである。

不登校児童生徒に対しては、家庭訪問や別室での学習など、子どもに寄り添った教育環境を確保する。

なお、教員は、自分の子どもが通う学校以外は、勤務することは可能である。また、一部教科担任制では、教科教員とともに、必ず担任教員と一緒に授業に入る。小学生への教授法を無視した授業は行わない。

## 2 施設整備等

## 【参加者からの主な意見・要望】

- 周山中メイングラウンドへの鹿の侵入防止対策をしっかりと行ってほしい。
- 新校舎の建設工事において、周山中学校生徒の学習環境への配慮をお願いしたい。
- 新校開校後、京北第二小施設はどのように活用されるのか。

## 【学校・教育委員会からの主な回答】

周山中メイングラウンドの北側及び東側に、鹿等の侵入防止柵を設ける計画としている。

新校舎建設工事の施工にあたっては、騒音・振動に配慮した計画としている。周山中とも十分相談し、学校行事等の際には、工事の進捗よくに応じて一時中断するなど、子どもたちの学習環境に十分配慮しながら工事を進めていきたいと考えている。

また、統合後の活用方法に関しては、京北自治振興会及び6自治会において議論を始められている。住民の意向を集約する作業を進められている地域もあると聞いている。地域住民の意向を踏まえ活用方法を検討していくのが本市の方針である。卒業生や地域の記念碑等は大切に扱っていく。

### 3 通学安全

#### 【参加者からの主な意見・要望】

- 積雪時の歩道や側道、学校敷地内通路の除雪が課題。現状、歩道・側道の除雪が十分にできておらず、子どもたちは車道を歩かざるを得ない状況である。敷地内駐車場の除雪作業を委託している京北出張所との連携や、新たに学校として除雪作業を委託することも考える必要があるのではないかと。
- 子どもがバスに乗車後の転倒防止策として、発車アナウンスを行うなど、運転手の子どもへの安全意識を高める指導をお願いしたい。
- 五本松地区において、児童数が減少し、高学年が低学年の面倒を見られなくなってきている。子どもたちの安全面を考慮し、バス通学の対象にしてほしい。
- 通学バスに関して、小学生と中学生で下校時刻が異なる中、スクールバスと違い、路線バスでは柔軟な運行体制が取れない。全員着座できていないのであれば、バスを追加運行させることを考えてほしい。
- 道路の安全性が確保されていない中で授業を再開する場合、例えば、遠隔教育や、欠席扱いにしない措置を取るなど、教育の機会均等を確保する具体的なアイデアを出していただければ安心できる。
- スクールバスで通学する中学生が、学校休業日に部活等で路線バスを利用することも考えられる。当該中学生に、路線バスの定期券は措置されるのか。

#### 【学校・教育委員会からの主な回答】

登校シミュレーションの実施にあたっては、子どもたちの安全面に配慮することを含め、ふるさと公社と事前に協議を行っている。中学生が小学生に席を譲るなか、運転手は、子どもたちが着座したことを確認してから発車している。第2回通学シミュレーションでは、黒田方面のスクールバスの車両を24人から44人乗りに変更することで、山国地区の路線バスの乗車率は緩和された。

五本松地区の児童は、現状、冬季のみバス通学を行っている。通年とするかどうかは、当該地区の保護者の意見もお聞きしながら検討する。

また、災害や緊急時等の対応については、校区が広がることもあり、昨年9月の災害を踏まえ、子どもたちの安全確保や授業への影響等を考慮するとともに、学校の防災体制も含め、しっかりと検討していく必要があると考えている。警報発令等の対応は、現状、3小学校と周山中学校で異なるが、小中一貫教育校として一つの学校となるため、対応を統一する。警報が出ていなくても、倒木等で通行止めになっている場合等の対応も含め、慎重に検討していく。

今後、教育課程を検討していくなかで、来年度は、登校時に加え、新たに下校シミュレーションも実施する予定であり、その状況等も踏まえて、通学方法が、スクールバスと路線バスで不公平が生じないことを前提として、子どもたちが、安心安全にバス通学ができるよう、バスの最適な運行方法等について、引き続きふるさと公社と協議しながら取組を進めていく。

## 施設整備に係る工事スケジュール（予定）

工事	内容	2018 年度 (H30 年度)	2019 年度 (H31 年度)	2020 年度	2021 年度
土木工事	① <small>のりめん</small> 法面对策（第 1 工区…新 校舎南面） ロータリー・テニスコ ート造成	8 月 3 月			
	② <small>のりめん</small> 法面对策（第 2・3 工区 …現周山中学校の校舎北 側から体育館東側）		3 月 12 月	2020.4 開校予定	
	③ ロータリー等整備		5 月 1 月		
	④ サブグラウンド・テニス コート・駐車場等整備			6 月 6 月	
建築工事	⑤ 新校舎建設		1 月 2 月		
	⑥ 旧校舎解体			4 月 8 月	
	⑦ プール建設			9 月 5 月	

※法面（のりめん）…土地の造成に伴い、盛土や切土をすることによって造られる斜面

※上記のスケジュールは予定であり、今後変更となる場合があります。



## 通学方法に関する基本的な方向性について

### 1 通学安全検討部会において確認してきた事項

- (1) 学校統合により遠距離となる児童について、教育活動に支障のないよう、公費負担により登下校に必要なバスを確保する。
- (2) バス通学において走行する経路は、冬季の積雪、バスの転回、通学所要時間などを考慮し、1年間を通じて子どもたちが安全かつ安定して通学できるよう、現在、ふるさとバスが走行している道路とする。
- (3) 通学方法は、京北第一小校区については概ね現在の方法を、京北第二小・京北第三小校区についてはバス通学を、それぞれ基本とする。
- (4) 通学バスの運行方法は、子どもたちの安全な通学手段の確保を大前提に、地域の効率的な公共交通体系という視点も踏まえ、スクールバスと路線バスを相互に有効利用することとする。

### 2 今後、検討協議して確認すべき事項とその方法

今後、新校の教育活動の検討との連携や、関係機関との協議、個別協議を具体的に進める必要があることから、以下の方法により検討協議・確認することとする。

	検討協議すべき内容	検討協議の方法	確認の方法
全体的な事項	①下校時、校外活動のバスの運行について ②緊急時の対応、通学バスとして利用する場合の定期券について	新校の教育課程等を考える中で、教育委員会が関係機関と検討協議	検討協議した内容を必要に応じて検討協議会に報告し方針を確認する
個別の事項	①下地区・城山地区等の通学方法について ②自転車通学について（対象範囲や対象学年〈ステージ〉の検討）	各学校と教育委員会が該当地区の方や関係する検討部会員の方と検討協議	

## 登校シミュレーションについて

### 1 目的

統合時の安全で円滑な通学に向けて、バス通学を経験することで、児童はもとより教職員、保護者、地域の方が統合後のイメージを共有できるようにするとともに、通学手段を検証し、必要に応じて改善を図る。

### 2 概要

#### (1) 実施体制

学校教職員及び教育委員会職員が、バス乗車やバス停での見守りを行うほか、地域の方や警察等に見守りや安全確認にご協力いただき、安全な通学環境の確保を図った。

#### (2) 周知

- ① 保護者向け文書を各校で配布したほか、個別の児童生徒にバス停・時刻等を掲載した文書を配布した。
- ② 地域の方に対しては、バス車内やバス停に告知ビラを貼付したほか、全戸配布の協議会だよりにも掲載した。

#### (3) 日時・要領等

■ 第1回：平成30年7月11日（水）登校時（小学生は京北第一小で合同学習）

京北第一小	通常どおりの方法で京北第一小へ登校
京北第二小	スクールバス通学の児童は、通常どおりの方法で京北第一小へ登校 徒歩通学の児童は、スクールバスまたは路線バスで京北第一小へ登校
京北第三小	全員、路線バスで京北第一小へ登校
周山中	黒田地区生徒の乗車バスは、路線バスからスクールバスに変更 その他は通常どおりの方法で周山中へ登校

#### 【実施結果】

- ・全路線で子どもたちの乗り遅れはなく、また車内での大きな混乱もなく、全員無事に登校した。
- ・通常より多い児童の乗車で車内が混雑し、そのため乗降に時間を要して若干の遅延が発生し、JRバスとの接続時間が短くなり、合同庁舎前バス停で乗継ぎした。

#### 【感想・意見】

##### 児童

- ・バスの中がいっぱいだった。ランドセルやかばんがあって、せまかった。
- ・乗る時や降りる時がたいへんだった。
- ・一貫校になるところやって登校するんだなと思った。
- ・普通のバスでは人がたくさんいるのが当たり前で、どんな感じかわかった。
- ・中学生に席をゆずってもらった。バス登校になれば、自分もゆずってあげたい。

##### 教職員

- ・地域班にかかわらず、最寄りのバス停から乗車するほうがよい。

- ・路線バスとスクールバスがほぼ同時で、小学生が間違えて乗りそうになった。
- ・道路を渡るときに横断歩道がない場所があった。
- ・中学生が席を譲ろうとしたが、混雑していて譲れない場面が見受けられた。

#### 保護者・地域

- ・集合後、バス発車まであまり時間がなかった。逆算した集合時間を考えていく。
- ・バスが混雑している印象はあった。

#### 一般乗客

- ・路線バスは普段から中学生で混んでおり、人や荷物が多い。小学生が立っていた。

#### ふるさと公社

- ・バス遅延により、JRバスとの接続時間が短くなった。対応を検討する必要がある。

### 【実施結果に基づく対応】

- ① 譲り合いができる程度の乗車率の確保への対応
  - ・路線バスも含めて車両の入れ替えを行い、適度な乗車率となるように図る。
  - ・車内での立ち方や詰め方、荷物の持ち方等を学校で指導する。
- ② バスの定時運行への対応
  - ・シミュレーションを重ねてバスの乗降に慣れてもらい、よりスムーズな乗降をめざす。
  - ・関係機関と協議し、将来的な時刻表変更の検討など、乗継ぎに支障をきたさないように努める。
- ③ バス停までの安全面への対応
  - ・道路の横断を考慮したバス停までの経路について検討する。
  - ・横断歩道が必要と思われる地点の状況を調べ、関係機関へのはたらきかけを検討する。

### ■ 第2回：平成30年10月19日（金）登校時（京北第一小・周山中で合同学習・合同音楽祭を実施）

京北第一小	通常どおりの方法で登校
京北第二小	黒田～第二小前（小塩・井戸除く。）の児童は、スクールバスで登校 小塩・井戸・山国～姑棄野の児童は、路線バスで登校 殿橋（下地区の一部）の児童は、徒歩で登校
京北第三小	全員、路線バス（2路線）で登校
周山中	黒田～第二小前（小塩・井戸除く。）の生徒は、スクールバスで登校 その他は通常どおりの方法で登校

#### ※前回との変更点

- ① 第二小のスクールバス車両の変更（24人乗りから44人乗りに変更）  
普段は24人乗りの車両であるところ、44人乗りの車両（路線バス車両）に変更し、一部地域の児童生徒の乗車するバスを路線バスからスクールバスに変更した。
- ② 第二小校区の一部での徒歩通学の実施

保護者との協議を踏まえ、比較的第一小に近い下地区の一部地域の児童（7名）は徒歩で通学した。

### 【実施結果】

- ・全路線で子どもたちの乗り遅れや車内での大きな混乱もなく、徒歩通学の児童も全員無事に登校した。
- ・第二小のスクールバス車両の変更、荷物の持ち方の指導等により、路線バスの乗車率は緩和されたうえ、概ね定時運行であった。

### 【感想・意見】

#### 児童

- ・前回よりバスが大きく乗りやすかった。乗り降りもスムーズにできた。
- ・前回より余裕をもってバス停まで行くことができた。
- ・中学生に席をゆずってもらった。バス登校になれば、自分もゆずってあげたい。
- ・みんなで安全に歩くことができ、時間も間に合ったが、あぶなそうなところがあった。

#### 教職員

- ・前回よりも車内のスペースに余裕があった。
- ・路線バスとスクールバスの区別がはっきりしており、丁寧に指導できた。
- ・道路を渡るときに横断歩道がない場所があった。
- ・徒歩通学は、想定したほど時間はかからなかった。

#### 保護者

- ・バス停までの歩道のうち、車道の端を歩く箇所がある。
- ・徒歩通学は、特段の問題はなかった。

#### その他

- ・JRバスとの接続は、特段の問題はなかった。

### 【実施結果に基づく対応】

#### ① 適度な乗車率の確保への対応

車両の変更や車内での荷物の持ち方等の指導による効果は認められた。今後も適度な乗車率となるよう努める。

#### ② バスの定時運行への対応

シミュレーションを重ね、児童生徒が自発的にスムーズに乗降できることを目指す。

#### ③ バス停までの行程等、通学路の安全への対応

学校・PTA・地域で点検・協議し、何らかの措置が必要と思われる箇所については、次回の検討協議会で確認したうえで、関係機関へはたらきかけていく。

<参考：登校の状況（平成30年10月19日（金））>

**第一小校区**



徒歩による登校

**第二小校区**



スクールバスからの降車



路線バスからの降車



徒歩による登校

**第三小校区**



路線バスへの乗車



路線バスからの降車